

iとらむ

「iとらむ」…「とらむ」は新型路面電車のこと。「i」はikebukuroに人と環境に優しい「愛=i」のあるまちづくりをと願う、この会の理念を表しています。



池袋駅西口再開発



旧庁舎→8つの劇場



造幣局跡地再整備



東西デツキ計画



グリーン大通りのオープンカフェ



南池袋公園

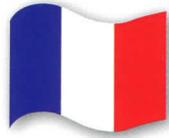


豊島区新庁舎

Contents ▶▶▶▶▶ **目次**

- ストラスブール市の交通まちづくり…2.3
- 池袋LRT(路面電車)計画の描く未来…4.5
- 進む池袋再開発…6
- VOICE、コラム…7
- INFORMATION…8

国際アート・カルチャー都市



ストラスブール市の交通まちづくり

みぞぐち ていぞう
溝口 禎三

池袋の路面電車とまちづくりの会



▶ ストラスブール・パリ視察ツアー

- 主催** 豊島区観光協会
- 共催** 東京商工会議所豊島支部
池袋の路面電車とまちづくりの会
- 期間** 平成27年9月2日～9月7日
- 参加者** 総勢22名
高野之夫豊島区長、斉木勝好豊島区観光協会会長、鈴木正美東商豊島支部会長、当会から溝口他会員3名

ストラスブール市のトラム視察

フランス・ストラスブール市のトラムは1989年に就任したカトリヌ・トロットマン市長の時代に最初に1994年に2路線が開通しています。現在は6路線のトラムと郊外に延びるBRT(バス高速輸送システム)とを組み合わせて交通網が作り上げられており、市民や観光客の足として使われています。

実際に見てみると、世界遺産となっている旧市街地区域では政策的に自動車の流入制限が行われていたり、郊外のトラム駅に「パーク&ライド」施設が作られたり、自転車や町をめぐると、人が自由に歩きながらまちを楽しみ、仕事をし、生活する基盤としての公共交通が充実していました。

理想をミッションとして実現

今でこそ世界的に有名なストラスブール市のトラムですが、トロットマン市長がトラム設置を訴え市長選に立ったとき、また、具体的に敷設計画を進めたときには強い反対があったそうで、これは洋の東西を問わないことです。ただ、公約を掲げて市長になったからには、それをミッションとして何があっても実現させ



トラム路線の交差する広場の賑わい

るという姿勢はわが国とは違い、政治の活力を感じました。

われわれ視察団を迎えてくださった現職のロラン・リス市長はトロットマン市長のもとで、初代のトラム設置担当の副市長だった方でしたので、詳しい話をお聞きすることができました。トラムの目的は公共交通の充実によって社会的弱者にも都市機能の利便性の平等な利用を実現できるようにすること、そして、トラムの成功のためには、ただ単にトラムを通せばよいということではなく、トラムの沿線の景観を整備し、人々に喜ばれるものにする、それが大事だということでした。



ストラスブール市を走るトラムの様子

黒い町から白い町に

ストラスブール市の人口は豊島区とほぼ同じで約27万5千人。ライン河につながる交通の要衝として古い歴史を持ち、ユーロ議会やEU人権裁判所が設置される国際都市です。観光地としてのにぎわいもあり、美しく活気のある街でした。しかし、トロットマン市長が改革に乗り出す30年ほど前までは、「寒くて暗い何も起きそうにもない」黒い町だったといえます。

それがトラムを実現したトロットマン市長に続き、ダイナミックな大型開発を主導したファビエンヌ・ケラー氏、そして、医療センターや託児所を充実させて住みやすいまちづくりを目指しているロラン・リス氏の三代の市長の強い指導力と実行力で、くすんだ黒い町から白い町に見えて変わったといえます。

なんだか豊島区の高野区政と重なるところがあります。

国際アート・カルチャー都市・豊島へ

豊島区が掲げる「国際アート・カルチャー都市」構想はいまひとつイメージが伝わりにくいとあります。しかし、ストラスブールを視察して、この言葉のイメージがよく理解できました。ストラスブール市は初めて訪れた観光客にもすぐわかる、分かりやすい「国際アート・カルチャー都市」でした。

ストラスブールのまちの中心部は、どこを観ても「きれいな、かっこいい、美しい」の「フォトスポット」だらけでした。そして、そこに動きのあるトラムや川に観光船があり、メリーゴーランドやオープンカフェやマルシェの人のにぎわいがあり、「シャッターチャンス」でいっぱいでした。

国際アート・カルチャー都市を目指す豊島区にも、今その予兆があります。4月に新庁舎や周囲のビルを借景にして、広い芝生を大胆に都会的に配置した南池袋公園がオープンしました。当会が実現を目指すトランジットモールとLRTの思想を先取りしたかのような画期的な気持ちのいい公園です。まだ芝生の全面解放がなされていないにもかかわらず、早くも子供からお年寄りまで、多くの人に愛され、にぎわっています。「国際アート・カルチャー都市」が完成した暁には、こうしたよく考え抜かれた気持ちのいいハードとソフトが街にあふれ出てくることでしょう。

ストラスブール市ではトラムが国際アート・カルチャー都市づくりの最初であり、フランスの理念を象徴する「自由・平等・博愛」のまちづくりを牽引してきたと感じます。「トランジットモールとLRT構想」が豊島区の「国際アート・カルチャー都市構想」に大きく寄与するであろうことは間違いないことに思えます。

(平成27年12月22日公開講演会報告日記)

池袋LRT(路面電車)計画の描く未来

報告日 平成27年12月22日
豊島区役所センタースクエア

後援 豊島区観光協会
東京商工会議所豊島支部
豊島法人会

協賛 豊島区

わが国におけるLRT導入の課題と展望 ～富山・宇都宮・海外の実例から～

森本 章倫 (もりもと あきのり)
早稲田大学理工学術院社会環境工
学科教授・当会顧問

1 次世代路面電車LRTの現状

LRTは世界中で増え続けており、1

世界中で増え続けるLRT導入都市

- 路面電車 世界47ヶ国366都市(2004年時点)
- 1978年以降導入されたLRTは、163都市に登る。(2012年末時点)

- フランス 28路線
- アメリカ 26路線
- スペイン 15路線
- そのほかにも、ドイツ、イギリスなどヨーロッパで多く存在

Waseda Univ. A. Morimoto Lab.

2 我が国のLRT導入時の課題

978～2012年の間に47ヶ国163都市で導入された。フランス28、アメリカ26、スペイン15路線が開業し、他にもドイツ・イギリスなどヨーロッパに多く存在する。

中国では、2014年までに12都市に239kmが導入され、2020年までに16都市に1,066km、2030年までに40都市に4,000kmが導入される計画である。自動車王国アメリカでも38都市で導入または検討している。

世界中で急速にLRT導入都市が増える中で、日本では進まない理由は以下の3点に要約される。

(1) 合意形成の問題

(2) 財源の問題

公共交通の施設整備にはお金がかかる一方、日本では独立採算が基本となっている。単独事業でなく都市経営の視点

1987(昭和62)年 早稲田大学 理工学部 土木工学科卒業
89(平成元年)年 同大学院 理工学研究科 修士修了、
93年 博士(工学)、
91年 早稲田大学 助手、
94年 宇都宮大学 助手、
マサチューセッツ工科大学 客員研究員、
宇都宮大学 助教授、
教授を経て2014年から現職
日本都市計画学会 常務理事、
日本交通政策研究会 常務理事、
宇都宮大学 都市計画研究室では、
宇都宮まちづくり推進機構と合同で
「LRTのある宇都宮の未来」を取りまとめた。

プロフィール

過度に進んだ自動車依存社会のため、渋滞や売上低迷への懸念が生まれる。

- フライブルク(独) : 都心部からクルマを締め出し
- ストラスブル(仏) : 自動車交通量減、公共交通利用増、商店売上増、歩行者増
- シャーロット(米) : 0・5%の公共交通税を住民投票で決定

宇都宮では、大通りのトランジットモール化を市民に社会実験で体験してもらい、渋滞を事前予測し、未来の環境

負荷や社会資本維持管理費の低減効果を示し、CGで「LRTのある新たな宇都宮の日常」を作り、合意形成を進めた。

(3) 関連する制度や施策の問題

既存事業者との調整が問題となるが、基幹線となるLRTと支線となるバスで連携・役割分担すべき。

● シェフィールド(英) : 規制緩和の影響でバス会社と競合する等で破綻しバス会社に買収された

● ポートランド(米) : LRT開業とともにバス利用者も増えた

● ノッティンガム(英) : LRT導入で公共交通全体の利用が増えた

● ストラスブル(仏) : LRT復活とともに自動車交通量減、公共交通利用増

● ナント(仏) : LRTとともに需要の少ない路線はBRTを導入

3 富山のLRT導入時の課題

廃止の危機にあった富山港線を活用してLRTを導入しLRTを軸にしたまちづくりを推進した。都心部の人口は減少から横這いに転じ、他路線も併せ軌道系沿線の方が人口減少は小さく、相対的に公共交通軸の形成につながっている。また、LRT沿線は非沿線より地価下落

で採算性を評価すべき。

● ポートランド(米) : 高速道路を縮小し都心部のLRTを無料に

● サクラメント(米) : 初期は単線を多用して安く創り発展させた

● マンチェスター(英) : 税金で施設整備し民間へ運営委託

次世代交通によって変わる街

次世代の交通が街を変え始めている



Waseda Univ. A. Morimoto Lab.

宇都宮は、我が国最初の全線新設のLRTとして注目が集まっている。20年以上にわたる経緯を経て計画決定し、2019年開業に向けて準備が進んでいる。最小需要ケースと最大需要ケースの収入と支出を試算し、十分に採算性を見

4 宇都宮のLRT導入時の課題

が小さい。さらにLRTネットワークを充実させる構想がある。
LRTはまちづくりのツールの一つであり、将来に向かっての明確でわかりやすい絵姿が必要。合意形成はそもそも100%賛成はあり得ず、行政のトップがあらゆる機会に思いを伝え、最大公約数的な合意を形成すべき。

道路か公園か？

ヒューストン 人口200万人(全米4位)
ゾーニング制度なし、一人当たり燃料消費量が世界一多い都市



Waseda Univ. A. Morimoto Lab.

ヒューストンのLRT (2004. 1. 1開通)

れ噴水の中を走行

● チュールリツピ(スイス) : 路面電車が13路線ありトランジットモールが普及
● カールスルーエ(独) : 路面電車が都心へ乗入れ
● ヒューストン(米) : 世界一1人当たり燃料消費の多い都市でもLRT導入がされ噴水の中を走行

5 今後の展望

歴史を振り返ると、常に次世代の交通が街を変えてきた。LRTを活用して魅力的な街を創りたい。
込めると試算された。2015年11月に設立された宇都宮ライトレール株式会社と芳賀町が軌道整備事業者となる。

みなさまからのコメント



東京商工会議所 豊島支部 交通分科会
阿部 等 評議員
(株)ライトレール 代表取締役社長

会の溝口事務局長からの報告の通り、ストラスブールは、1994年の2路線の開通以来、LRTを中心としたまちづくりに大成功した。日本からも多くの人が視察や見学に行っている。交通を良くすることは、暮らしやすい、働きやすい、遊びやすいまちになるので、池袋でもLRTを実現したい。



豊島法人会
南山 幸弘 会長
(株)音羽 代表取締役

講演を聴き、LRTはまちづくりにも役立つことが分かった。新庁舎ができ、旧庁舎の跡地も開発され、LRTは豊島区が変っていくのに必要な交通機関になると感じた。最後のヒューストンの噴水を見て、LRTが特徴あるまちづくりに役立ち、豊島区に新しい法人が増えて欲しいと思った。



豊島区観光協会
平井 憲太郎 副会長
(平井事務所 代表)

LRTは夢を与えるものでなければいけない。皆が「あると良いな」と思える絵があると、話をもっと進む。路面電車は急勾配を走行できるので、「西武・東武デパートを貫通して東西デッキを通す」「豊島区全域にネットワークする」といった壮大な夢を描いて欲しい。



豊島区
高野 之夫 区長

豊島区は、環境にもやさしい街を目指し、国際化への取組みも進めている。本会が10年以上も熱心に取組んでいるLRTを中心とした街ができれば、全世界のお手本になれる。本日、新国立競技場の設計コンペにて、新庁舎を設計した隈研吾さんの案が選ばれたことにご縁を感じている。豊島区は、本日ご参集下さった大勢の皆様のお力もお借りしながら、これからも挑戦をして、これからの都市のお手本、モデルになるようなまちづくりを進めていきたい。

池袋のチャレンジ

国家戦略特区で進む池袋再開発

駅前から広がる 広場の街へ進行中！

国家戦略特区で加速する再開発計画

このところ池袋の変化の兆しが次々と目に見えるようになってきた。昨年5月に完成した**豊島区新庁舎①**は全国的な注目を集めたが、今年4月には**東口グリーン大通り②**のエリアマネジメントが国家戦略特区計画に認定され、5月には「**8つの劇場③**」(劇場ホール・多目的ホール・小ホール・シネコン・ライブ劇場・カンファレンスホール・パークプラザ・シネマプラザ)として生まれ変わる予定の旧庁舎跡地活用事業も国家戦略特区の都市再生プロジェクトとして正式に申請された。

さらに、池袋に隣接する**雑司が谷地域④**は、昨年、日本ユネスコ協会認定の「未来遺産」の登録が決定し、今年5月には、雑司が谷鬼子母神堂が国の重要文化財として指定されることが確実になった。

長年の懸案にもいよいよ着手

区民が長年待ち望んだ再整備計画も事業化が始まっている。まず、サンシャインシティの東側の造幣東京博物館が6月で閉館となり、秋には造幣局が移転し、来年にはこの**造幣局跡地⑤**の再整備工事が始まる。東側の17ヘクタールは大型防災公園に、西側の1.5ヘクタールは教育・研究機関や住宅・商業施設が入る計画で、完成は2019年の予定だ。

巨大な池袋駅の**東西デッキ計画⑥**も今年中には詳



細調査を終え、南側デッキの基本計画を策定する予定。また、西武池袋駅に隣接する延べ床面積約5万㎡の**西武鉄道池袋ビル⑦**はすでに建替工事が進行していて近年には完成予定。西武鉄道本社が所沢から移転して来るほか、低層部には商業施設が入り、18階地下2階建ての大型オフィスビルとなって、将来的には東西デッキとも接続される計画だ。

さらに**池袋駅西口の駅前再開発⑧**も動き出した。池袋駅西口地区市街地再開発準備組合が昨年末に設立されて、今年5月には事業協力者として三菱地所と三菱地所レジデンスを選び、具体的な構想を練り始めている。再開発の対象区域は東武百貨店を含む約53ヘクタールの大規模開発となり、2033年までに再開発を完了するスケジュールだ。

広場とLRTのある街・池袋に

こうした多くの開発のなかでも大注目なのは今年4月にリニューアルオープンした**南池袋公園⑨**だ。中央に大胆すぎるくらいに広がる芝生が都市生活者を温かく迎えてくれる。芝生の周囲には階段状のベンチの憩いの空間や家族で遊べる遊具を備え、レストランを併設して公民連携の工夫にあふれる公園マネジメントを実現している。民主主義の原点である欧米型の広場はこれまでの日本にはありそうでなかったものだが、私たち「池袋の路面電車とまちづくりの会」が設立当初からずっと提案してきたのはこうした日常的に集い、憩い、語れる場を持つ「広場」のある街なのだ。

今後、次々に現れてくる近未来の池袋スポットが、自由で快適な**LRT池袋回遊線⑩**で結ばれる時、区民の心の中にある素敵な回遊都市・池袋の将来像が完成すると確信する。いよいよ楽しみな時間が始まった。

(小林俊史)

Voice ▶▶▶▶▶▶

ヴァンソン 藤井 由実さん

「ストラスプールのまちづくり」著者
単なる交通手段としてではなく、
環境、福祉政策としてもフランス 28
都市で LRT が導入され人々の生活
にすっかり浸透し、市街地での自
転車利用や歩行者優先化が進ん
だ。各都市が LRT とストリートファ
ニチャーのイメージを統一させて、まちのブランド化に成功
した。東京は世界でも類稀な機能性の高い都市で、すでに
大変な賑わいをみせている池袋がこれからも前進、変化し
ていくための要素は何か？池袋駅前の LRT 導入は、グリー
ン大通りの歩行者専用空間化、素晴らしい新庁舎へのア
クセスや沿線景観の整備と共に進めると、駅付近のさらなる
活性化につながるだろう。バリアフリーのスタイリッシュ
な車輛が緑溢れる専用軌道を走る姿は、池袋のシンボルと
して日本で初の都市型 LRT の展開になる。楽しみだ。



picture@The Yomiuri Shimbun

たなまち よしひろ
棚町 宣弘さん

日本画家
「21世紀は感性の時代」といわれ
て久しくなります。ものづくりでも
サービスでも、今の世の中、ただ目
的を果たせるというだけでは消費
者は満足しません。それに加えて、
なにか感性に訴えるものが求めら
れているようです。「池袋のLRT」の良さも、単に皆さんの
「足」となること以上に「乗車でまちがより楽しめること」にあ
るのでは、ないでしょうか。たとえば、眺めの良い二階建て路
面電車。あるいは、ゆったりくつろげるカフェ付き路面電車。そ
んな演出だけで、池袋のまちを歩くことが楽しくなってくる
と思います。また、これまで東京になかったものなので、人々の
話題にもものぼることでしょう。池袋が世界的に注目されるきっ
かけになるよう、皆さんの感性に響く「楽しいのりもの=LRT
」には、おおいに期待したいものです。



Column ▶▶▶▶▶▶

池袋駅東口界隈で
「トラム現象」起る

近ごろ、池袋のまちなかを歩いてい
て、気づいたことがあります。いつの間
にか「路面電車(トラム)モチーフ」が増
えてきているのです。

以前から、グリーン大通りの歩道や池
袋ショッピングパーク(ISP)のシャッ
ターに路面電車のイラストがしつらえ
られてはいました。グリーン大通りでは
もう見られなくなりましたが、ISPの
方はまだ残っていますね。

それがどうでしょう。南池袋パーク商
店街に面した、藤久ビルの工事現場で
は、仮囲いの扉に戦後の街並み(池袋駅
前などを走るかつての都電が多数見ら

工事あ西宮カ
ビルに掲げと
現場写真(左)
武庫野5階で
る百貨店の中
の「トラムカ
フェ」(下)



撮影協力:(株)藤久
不動産、(株)ソー
シャル・エス・ティ
(トラムカフェ)



れます)と現在の街並みの対比写真、地
図がずらりと掲げてあります。また、西
武百貨店の紳士服フロア(5階)では、北
欧の路面電車をテーマとしたおしゃれ
な喫茶店、その名も「トラムカフェ」が営
業中です。さらには、都電荒川線の向原
電停付近(春日通り)では自然食の食堂
「都電テーブル」も営業中、といったよう
に、路面電車が目につくようになりまし
た。よく探せば、他にもまだまだ、あるの
かも知れませんね！

しかしこれらは、決して鉄道ファン向
けのものではないでしょう。もちろん示
し合わせた動きではないし、さりとして単
なる偶然とも思えません。ここで何やら
「トラム現象」が池袋に起きつつある、と
いうことなのでしょう。

よく言われるように、繁華街としての
池袋の発展は、もともとは鉄道駅の設置
から始まっています。そして、その後の
東京市電の東口乗り入れ、地下鉄の開
通、西口バスターミナルの整備なくして
は、今の池袋はなかったであろうこと、
どなたも想像に難くないことでしょう。

池袋を歩きながら、このまちに住む
人々やまちを訪れる人々のあいだで、ま
ちの歴史や、今後の「池袋スタイル」に思
いを巡らせるムードが高まってきた顕
れのひとつなのかな、などと独りごちる
今日この頃です。

(藤村建一郎)

INFORMATION

活動報告

平成27年3月～

平成27年

3月28日

●第12回総会開催

●勉強会開催

「宇都宮LRT実現の道筋から学ぶ」(早稲田大学 理工学術院 森本章倫教授)

5月10日

●第6回東京LRT連絡会メーリングリスト会合参加

8月4日

●第10回池袋副都心グランドビジョン推進懇談会参加

8月5日

●豊島区長・副区長・都市整備部長と事務局との会合開催

8月20日

●豊島区議団への予算要望(自由民主党/日本共産党)

9月2日～7日

●「ストラスブル・パリ視察ツアー」参加(豊島区観光協会主催、当会共催)

10月23～25日

●「LRT都市サミット鹿児島2015」参加

●第12回「全国路面電車サミット2015鹿児島大会」参加

11月4日

●豊島区議団への予算要望(公明党)

11月21日

●第7回東京LRT連絡会メーリングリスト会合参加(於椎名町、池袋)

12月22日

●第13回総会

●公開講演会開催

「国際アート・カルチャー都市・ストラスブル市の交通まちづくり」

(当会事務局長 溝口禎三・本誌2～3P)

「わが国におけるLRT導入の課題と展望」(早稲田大学 理工学術院 森本章倫教授・本誌4～5P)



公開講演会開催パンフレット

平成28年

2月11～14日

●豊島区観光協会「ヴァレンタイン・ファンタジー池袋」開催(ストラスブル市との交流)

5月8日

●第8回東京LRT連絡会メーリングリスト会合参加

入会のご案内

入会方法・年会費

会員募集

1. 個人会員(個人のご入会の場合) 年会費3,000円
2. 法人・団体会員(会社・学校・病院・町会・商店会・任意団体などご入会の場合) 年会費10,000円
また別途、賛助会員もお受けしております。年会費 一口10,000円(一口以上からお受けしております)。
別紙申込書にご記入の上、下記にファクシミリ、または郵便でお送りください。
「ゆうちょ銀行 口座記号00130-5 口座番号482246 加入者 池袋の路面電車とまちづくりの会」

お問い合わせ

公益財団法人としま未来文化財団みらい文化課まちの魅力づくりセクション
〒170-0013 東京都豊島区東池袋1-20-10 担当:高橋 TEL:03-3590-7118 FAX:03-3984-0865
「池袋の路面電車とまちづくりの会」事務局 担当:溝口 TEL:03-3983-2483
e-mail:ikebukuro.lrt@gmail.com ホームページもご覧下さい <http://www.i-tram.com>

編集後記

先日アメリカのフェニックスに行ってきた。滞在した長期滞在用のシェアアパートの目の前をトラムが走っていた。大学、空港、市街地を結んでいる。車社会のアメリカでもトラム導入が進んでいるという勉強会での話を思い出した。自転車に乗った若者が自転車ごとトラムに乗っていく。車内にはすでに一人自転車の人に乗っていた。電停の前には広い駐車場があり、「Park Here」(パーク&ライド)の表示。
滞在したアパートの台所にはディスプレイが付いていた。流しの生ごみをそのまま砕いて排水と共に流す便利機能だ。日本ではまだまだ一般的に普及しているとは言えないが、アメリカでは台所機能として当たり前のようになっている。日本でも最近少しずつ見られるようになってきた「タブレットレジ」の代わりにタブレットで販売処理をする。とある田舎町へドライブしたとき途中で立ち寄った村の売店でも「タブレットレジ」だった。
若者の流行やファッションには国の時差は感じられないが、この社会基盤となると数十年の開きがあるという人がいる。日本のあちこちの都市でトラムを見るようになるにはまだ十年単位の積み重ねが必要なのだろう。(謙)